

## 時代の変化に対応できる精神科医としてのスキルの重要性—長崎市の西脇病院院長・西脇健三郎氏に聞く◆Vol.2

2019年7月23日 m3.com地域版

ツイート

近年、5大疾病症の一つに数えられる精神病。うつ病や依存症の増加が社会的な問題となる以前から積極的に治療やリハビリテーションを推進してきた西脇病院の取り組みは、今や全国の精神科病院や関係機関から注目を集めている。長崎県や全国の精神医療における課題や、今後精神科医に求められる能力について、漫画『ブラックジャックによろしく』精神科編の監修を行った西脇病院院長の西脇健三郎氏に話を聞いた。(2019年4月26日インタビュー、計2回連載の2回目)

▼第1回はこちら



西脇健三郎・西脇病院院長

——長崎県の精神医療分野において、何か変化や大きな出来事はありますか。

大きな出来事は、2014年に起きた佐世保女子高生殺害事件です。この事件は発生の1か月前に、加害者の女子高生を診察した精神科医から児童相談所に「殺人の予兆がある」という相談が電話で寄せられました。しかし、県の行政当局はその相談を無視しました。さらに事件後に行政当局から出された最終報告書にも、その電話でのやり取りが記載されることはありませんでした。

事件後、この精神科医は行政当局に対して「精神科関連の法規や精神医療に関する理解を高めてほしい」などの要望を訴えておりますが、果たして十分に検討されているのでしょうか。2016年に神奈川県相模原市の知的障害者施設で殺傷事件が起こり、事件後の第三者委員会の報告書には、危険情報に関する認識や共有の不足があったと書かれています。もし、長崎で事件が起きた後に精神科医と行政当局との連携に関する何らかの検討がなされていたら、相模原殺傷事件の加害者に対する精神科の対応は異なっていたかもしれません。

また長崎県では、医療情報の共有という面でも課題があります。私は以前から国が推進しているSS-MIX(厚生労働省電子的診療情報交換推進事業)を積極的に活用したいと考えていますが、いまだ県内での普及にまで至っておりません。今後は、より緊密に医療機関同士が連携する必要があり、医療情報の交換・共有による質の高い医療が求められます。

——現在の精神医療における課題はどのようなものでしょうか。

精神疾患の構造変化に、多くの精神科医自身が追いついていないことです。かつて高度経済成長期に合わせて精神科病院の数が増え、統合失調症患者の社会的入院させることで病床数も大きく増加しました。しかし、精神科病院がそんな社会的入院を続けたことで、宇都宮病院のような不祥事が発覚したのです。

そして、その反省から1987年に精神衛生法の改正が行われて、自分の意思に基づいて入院する任意入院という入院形態が生まれました。しかし当時、任意入院に切り替わった患者のほとんどは、それまで長期間にわたって社会的入院をしていた人がほとんどでした。つまり、家庭等の受け皿のない患者です。だから、仕方なく任意入院を選択することになった人たちといっていいでしょう。といったことで、精神科医も入院時の任意契約の大切さを十分に理解しようとしないうちに、その後、精神科医療に携わることになったのです。

また一方で、精神科疾患の患者を地域で支えるとして心療内科を掲げるメンタルクリニックが精神科医によって多く開設されました。しかし、そうしたクリニックのほとんどは休日や夜間に対応する体制がなく、その時間帯に状態が不安定になった患者の多くは、一般の救急医療機関が担わざるを得ない状況となっています。こうした対応には、精神科機関と一般救急医療との連携、情報の共有化が重要です。そういったことから、先に紹介したSS-MIX(厚生労働省電子的診療情報交換推進事業)の整備は急務だと思います。ちなみに西脇病院では2001年から、24時間365日対応で外部からの電話相談業務

ログインID

パスワード

 次回から自動でログイン

ID・パスワードを忘れた方はこちら

m3.comは、医療従事者のみ利用可能な医療専門サイトです。会員登録は無料です。

m3.comを検索

キーワードを含む記事を検索



注目キーワード

電子カルテ

アナフィラキシー

終末期

機能強化型訪問看護ステーション

ASCO

パセドウ病

日本糖尿病学会

SP療法

NOAC

PSVT

CAEBV

化膿性関節炎

敗血症ショック

SAH

かかりつけ医

患者申出療養制度

指導医講習会

標準採血法ガイドライン

在宅緩和ケア充実診療所

外来後発品使用体制加算

精神疾患診療体制加算

ゼプリオン

胸腔ドレーン

を受け付けています。日中と同じ病院スタッフを中心に交代で行っており、夜間でも馴染みのスタッフと話せることで、気持ちが楽になる患者も多くいるようです。

このように、精神科病院を取り巻く状況や疾病構造は、時代や社会に合わせて大きく変化しています。しかし肝心の精神科医は、うつ病や依存症の患者ときちんと向き合う能力が身につけていないように感じられます。患者は社会生活において、何かしら生きづらさを感じています。それは診察室での対話だけでは見えてきませんし、そこだけで解決するものでもありません。これからは、入院処遇においては任意入院を基本として、任意契約による継続的な治療、支援体験を重ね、多くの精神科疾患の患者と同じ社会で生きる人として対応できるスキルを備えるべきだと考えます。

——西脇病院は“LIFE”というテーマを掲げていますが、その内容について教えてください。

西脇病院は「生命に関わる」「生活を支える」「人生を見守る」この三つの行為をまとめてLIFEというテーマにしています。しかし、実はもう一つの“LIFE”があるんです。それは、精神科臨床だけではなく、全ての医療現場でいえることですが、「人生に関わる」「生活を管理する」「生命を看取る」です。特に、精神科の場合、疾患によっては、残念ながら慢性的に進行、荒廃に至るといった悲しい現実もあります。確かに、精神科病院の役割とは、この二つの“LIFE”の双方です。

ただ、どちらに、どのくらい軸足を置くかは各々の精神科病院の理念、関わる患者層によって違いがあつていいと思います。もちろん、個々の患者によってもその病態で異なりますよね。つまり、精神科医療とは林業のようなものなんですよ。

現に、厚労省も各自治体に長期入院者の地域移行から多様な精神疾患（15疾患）の対応をしっかりと行うようにとの通知が出されていると聞きます。これも、社会的入院患者の高齢化、そして死亡退院と、やはり精神科疾病構造の変化によるものでしょう。

また、新たな社会的入院を生み出さないために、厚労省は、退院後の1年以内の再入院の抑制も言っているようですが、やみくも地域で支えることにも無理があると思つてか、レスパイト入院、「時々入院、ほぼ在宅」は1年以内でも認めるといった方針が出されています。西脇病院ですでに、任意入院によるレスパイト入院はかなり以前より導入しています。この利点は、ただ単に休息といった意味だけでなく、そこには結果として病状増悪、また、その場合の強制処遇による治療者との関係性の悪化を回避できるといった役割もあります。

私は漫画「ブラックジャックによろしく」の精神科編の監修をしましたが、それ以前からさまざまな取材や講演依頼を積極的に受けてきました。その理由は、もっと一般の人にも精神科病院の現状を知って欲しいと思つていたからです。精神疾患患者の地域との交流とか、開放化が必要だと言われてます。しかし、精神科医療機関の施設内で何が行われているかはあまり知られていないのではないのでしょうか。まずは、多岐にわたる精神疾患が治療を受けていることをこれまでお話ししてきましたよね。加えて、その治療のアプローチも異なること、そして精神科医がどういった活動をしているのか、取材や講演を通して、より広く知ってもらえればと思つています。



「社会の変化に合わせて、精神科医も変わるべき」と語る西脇院長

#### ◆西脇 健三郎(にしわき・けんざぶろう)氏

大阪医科大学卒業。長崎大学医学部精神科医局に入局し、長崎県立東浦病院医長を勤め、その後西脇病院の院長に就任。日本アルコール関連問題学会理事、九州集団療法研究会理事、全日本断酒連盟顧問、全国薬物依存症者家族連合会顧問。

【取材・文＝藤本明宏】

#### インデックス（一覧）

- ▶【神戸】介護老人保健施設での医師の役割-2025年に向けたビジョンを、介護老人保健施設ロー... 2019/9/10
- ▶【大阪】大阪府の認知症サポート医とフォローアップ研修の取り組みについて-中尾正俊・大阪府医... 2019/9/10
- ▶【和歌山】全国初の「5G×医療」実証実験-上野雅巳・和歌山県立医科大学地域医療支援センター... 2019/9/9
- ▶【佐賀】ドクターヘリの基地病院として佐賀県の救命救急の中核を担う-阪本雄一郎・佐賀大学医学... 2019/9/9
- ▶【滋賀】揃いのポロシャツが地域医療連携室一体の証-滋賀病院地域医療連携部長・阪上芳男氏、地... 2019/9/9
- ▶【広島】乳がんについて患者と医療者が語り合うサロンを主催-角舎学行・広島大学病院乳腺外科医... 2019/9/9

臨床研究法案

JMAT

ラムシルマブ

気管挿管

キドミン

副作用

がん治療薬

- ▶【大分】働き方改革の一環として「医師も当直を夜勤にして翌日は昼から帰宅する」制度を導入-是... 2019/9/9
- ▶【高知】大反響の「むずむず脚症候群専門外来」、開設のきっかけは一通の手紙-川田誠一・高知鏡... 2019/9/9
- ▶【沖縄】医師とウクレレ奏者の「二刀流」で活躍-長田クリニック・長田清院長に聞く◆Vol.2 2019/9/9
- ▶【岡山】在宅の看取りは医療職・介護職も不安だが、それを勉強会で払拭-中村幸伸・つばさクリニ... 2019/9/9
- ▶【山梨】外国人患者は2割だが、負担感は5割という実感-前田宜包・富士山八合目富士吉田救護所... 2019/9/9
- ▶【奈良】ホームページを賑わす院長の「家庭菜園」「工作室DIY」が患者に好評-近藤秀明・こん... 2019/9/9
- ▶【福井】被災地に駆けつけるようになった原点は阪神・淡路大震災-山村修・福井大学地域医療推進... 2019/9/9
- ▶【静岡】垣根を超えた連携で小規模自治体でも過疎・高齢化を乗り切る-静岡県賀茂地区在宅医療・... 2019/9/9
- ▶【石川】食のリハビリのため病院食を比較した「食形態マップ」を制作-中村悦子・訪問看護ステー... 2019/9/9
- ▶【埼玉】65歳で開業したワケ-吉尾卓・久喜リウマチクリニック院長に聞く◆Vol.1 2019/9/9
- ▶【京都】患者さんの興味から始まった自家菜園-京都大原記念病院「農業とリハビリテーションの融... 2019/9/9
- ▶【千葉】CT、MRIなどの検査機器を備えた脳神経外科クリニックを船橋市に開いた理由-小西孝... 2019/9/9
- ▶【愛知】医療技術を活かした「医療ツーリズム」で、医療のさらなる発展・充実を目指す-愛知県保... 2019/9/9
- ▶【宮城】五感を刺激する情動療法で認知症を治療-藤井昌彦・仙台富沢病院統括理事に聞く◆Vol... 2019/9/9

---

#### バックナンバー（一覧）

- ▶ 第30回日本医学会総会2019中部
- ▶ トラブル対策の心得
- ▶ 開業医のための労務管理入門

新着 | レポート | インタビュー | オピニオン | 地域情報(県別) | スペシャル企画 | 医師調査 | 臨床賛否両論 |